

【日本貿易統計（22 年 10 月）】

貿易赤字が再び拡大

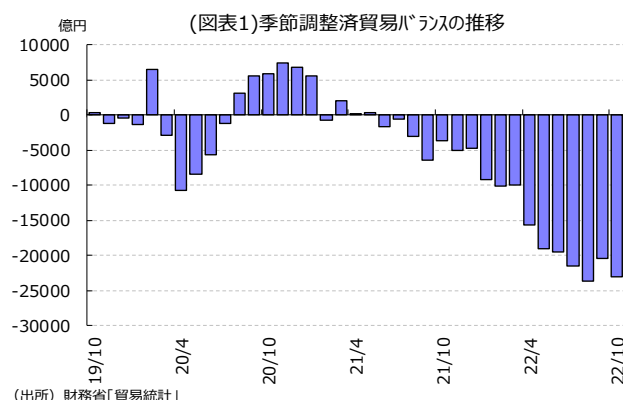
～世界景気減速に伴い輸出は失速へ～

経済調査部 エコノミスト 伊藤 基

1. 季調済の貿易収支は 17 ヶ月連続の赤字

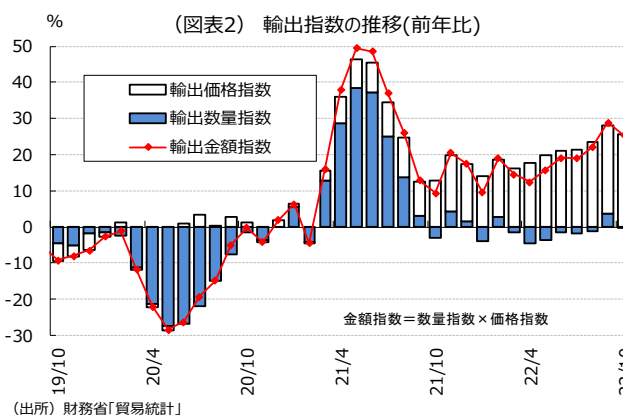
財務省から発表された 10 月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+25.3%と、9 月の同+28.9%から伸びが鈍化した。一方、輸入金額は同+53.5%と前月（同+45.7%）から伸びが拡大した。

季調済前月比では、輸出金額が+2.2%、輸入金額が同+4.2%とそれぞれ増加し、季調済の貿易収支は▲2 兆 2,992 億円と、17 ヶ月連続で赤字となった（図表 1）。なお、9 月単月の赤字幅に続き 10 月単月の赤字幅も 1980 年以降最大となった。

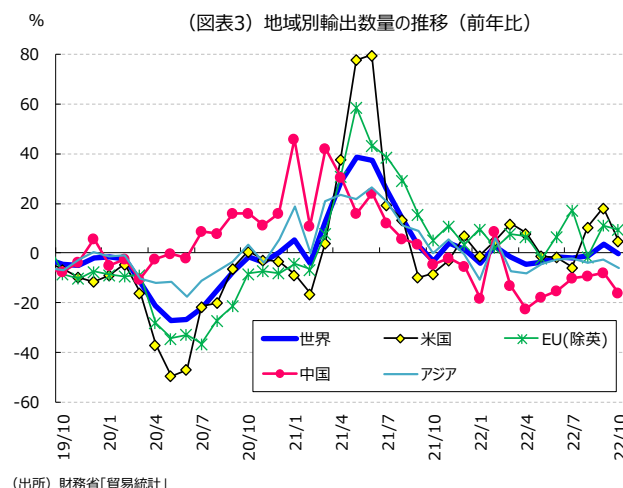


2. 輸出は力強さを欠く展開

輸出金額の前年比を価格と数量に分解すると、価格指数が前年比+25.8%、数量指数が同▲0.3%となった。価格指数の大幅上昇によって輸出金額が押し上げられているが、数量指数が減少に転じており、10 月の実勢としては軟調な結果と言える（図表 2）。



主要相手国・地域別の数量指数を見ると、米国向けが同+4.7%（9 月：同+18.3%）、EU（除英）向けが同+9.4%（同+11.2%）、中国向けは同▲16.0%（同▲7.8%）となった（図表 3）。米国や EU（除英）向けの伸びが前月から鈍化したほか、中国向けはマイナス幅が拡大しており、世界的な景気減速による影響が顕在化しつつある様子を示している可能性がある。



米国向けは拡大基調が一服した。品目別では、自動車と同+25.7%と前月（同+73.1%）から伸びが鈍化した影響が大きかった。また、プラスチック（同▲14.3%）や医薬品（同▲7.7%）がマイナスに転じたほか、鉄鋼（同▲41.6%）はマイナス幅が拡大しており、幅広い品目で輸出の勢いが鈍化した様子がうかがえる。

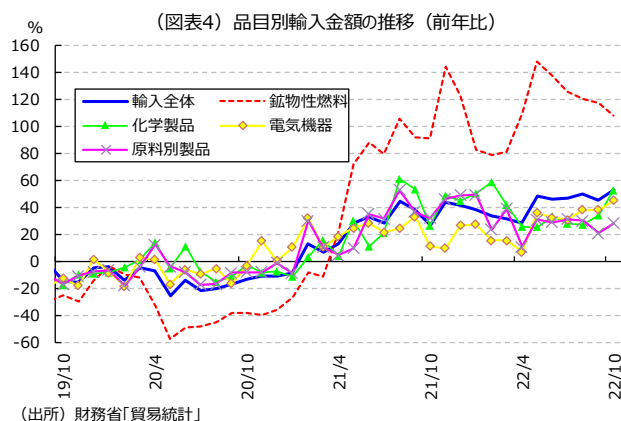
EU（除英）向けは、米国向け同様に自動車（同+67.6%）の伸びが前月（同+127.1%）から鈍化した影響が大きい。また、鉄鋼（同+56.6%）や原動機（同+16.1%）などの品目でプラス幅が縮小した。

中国向けは8ヵ月連続のマイナスとなった。9月まではマイナス幅が縮小基調で推移していたが、10月は一転してマイナス幅が拡大した。ゼロコロナ政策が続き、不動産市況も冴えず、景気下押し圧力が強まるなかで、中国向け輸出は軟調に推移している。品目別では、半導体等製造装置（同▲16.8%）が前月（同+1.3%）からマイナスに転じた。プラスチック（同▲12.6%）、半導体等電子部品（同▲14.4%）などといった主要品目でも二桁のマイナスが続いている。

3. 資源高と円安が輸入金額増加の要因に

輸入金額の前年比を価格と数量に分解すると、数量指数が前年比+5.6%と、2ヵ月ぶりにプラスに転じ、価格指数は同+45.3%となった。

金額ベースで品目別の動きを見ると、構成比で約30%を占める鉱物性燃料が同+108.0%（寄与度：+22.2%ポイント）と、増加の主因となっている状況に変化はない（図表4）。内訳を見ると、原油及び粗油が同+97.1%、液化天然ガスが同+150.9%、石炭が同+154.0%と、依然高い伸びを維持している。数量ベースでは、石炭（同▲7.5%）が減少する一方、原油及び粗油（同+9.9%）、液化天然ガス（同+9.9%）は増加しているが、金額ベースとの差は大きく、輸入金額の増加はもっぱら国際商品価格の上昇と円安によってもたらされている。鉱物性燃料以外の主要8分類の品目のなかでは、自動車（同+50.3%）が前月（同+13.1%）から大きく増加した。



4. 輸出の回復は2024年度以降にずれ込むと予想

先々の輸出は、再び減少基調となる可能性が高い。米国では、FRB（米連邦準備制度理事会）による積極的な利上げの影響がラグを伴って実体経済に現れることで、来年前半に景気後退入りの可能性が高まっている。また、中国でのゼロコロナ政策は、今後時間をかけて緩やかに緩和方向へ進むとみるが、当面は景気の下押し圧力として残存するとみている。不動産市場の低迷が経済活動を阻害する展開も続くだろう。欧州も、エネルギー問題やECB（欧州中央銀行）の積極的な利上げが景気の足枷になるとみる。日本にとっては、主要輸出先の景気が軒並み鈍化に向かうなか大幅な円安が進んだ後ではあっても、輸出が景気の牽引役となる展開は期待できない。輸出の回復は、主要国の景気が底打ちから回復に向かう2024年度にずれ込むだろう。

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411